

福島公論

発行日毎月拾日二十日三十日
定 価 一 部 五 銭
発行所 福島縣平町南町七一
印刷所 安川源一

酒は
末廣に限る
平町南町
志賀 吟吾
電話八六六番

創刊の辭

ふるさとのみなさん今度福島公論と銘打てる、本紙を發行するに際しまして聊か創刊の趣旨を御訴へします。漂流流轉今日迄幾多の新聞紙を擔へ或は社員となりふるさと先輩有志諸士の熱烈なる賛辭と應援とによつて茲に本紙の全對責任者となり過去に於ける萬分の一なりとも、淺學非才ではありまされど必す郷土のため命限り文獻せんぞ、勇猛邁進する覺悟を把持して決然起つたので御座います、然るに現下の世相を一觀するならば政治經濟思想的の難局に直面し我國は今や何處に行くの現狀態を捲起して居り放漫政策による時の政友會内閣の施政方針により八千萬同胞は極度の思想的惡化の原動を深刻ならしめたるに對し國民大衆の怨嗟の聲堪へ難く瓦解の憂目を出し立派なる國政改革の正義の熱血の士濱口閣下の組織するや財政緊縮を津々浦々に迄絶叫なし根本的による經濟難局打開のため金解禁を勇敢に斷行なして彼の獨逸大統領ヘンデンブルグの施政方針の如く、且つては大正七八年當時日獨戰爭の結果戦は破られ悲惨なる状態にあつた獨逸がその

上水道擴張起債認可反對せんが爲めの反對者たる

野崎外五名の町議

何の面目あつて三萬町民に謝罪出來得るか

經濟組織のよろしきを得て現在の世界に誇る復興の原動をなしつゝある如く今や現下の我國も其の過度時期代にある秋、本紙發刊の誕生を迎へ飽く迄正義のため筆端火を吐く文陣に意義大く如何なる惡魔(サタン)に遭遇せよとも必らず捲土重來の意氣鋭耐に現實社會のため遠大なる思想を把持して目的の彼岸に到達する迄大義名分の上に立つて奮闘努力する覺悟で何卒本紙を擔ふて責任ある文筆労働に従事する私のため御指導と後援あらん事を切に熱望しまして筆を擱く。

民政同志の海水浴

去る本月拾日民政同志會の發起により民政同志會一會融合の親交を深刻ならしむる意味の元に約八拾名の團体が各自自動車に分乗して四ツ倉九昌ホールを休けい所となし余興に福引等を催し盛大なる納涼慰安をなした

投書募集

生活迄驚威を享ける現今弱者のため本社は決然社會正義を振かざしあらゆる強者よりしいたげられつゝある弱者に對し徹底的に階級認識を得ざる惡徳的偽善をたぐましようする者に對し内容調査の上必ず筆誅を持つて反省を促す遠慮なく無名投書にても差支へなしとしごし投書あらん事を。

公論展望

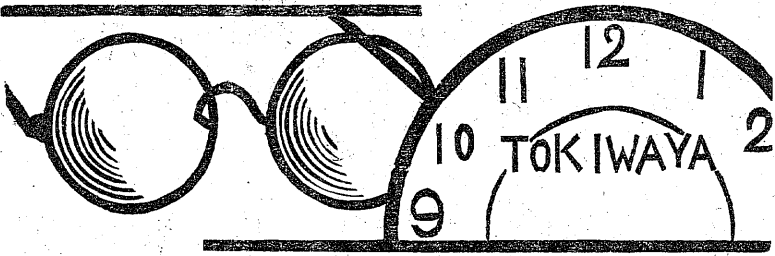
四倉町民舉つて漁港促進のため努力なし日夜猛運動を續行する意氣町發展のため其の心情や郷土愛の發露として賞すべし然るに角網設置問題で野崎縣議當局之れ又某縣議の怪しげなる欺満なし認可角網を大系引きにて湯本水道促進問

の時期を待つて擴張を爲す完成しむることは寧ろ町政の上にも又地方失業問題の解決の上にも最も機宜を言つて居なかつた金解禁後得たるものなりとして極力物價低落を必然とするも之れが促進を期して運動をのなれば金解禁後行后に於繼續して來たものの如く又て工事施行するものこそは政府は金解禁實施期を本年セメントは一樽三圓五十錢一月十一日と發表して置いた鐵管は一噸八十圓に低落したのであるからまさか天狗のものと見込たること一杯様でもない限り此の大工事とを言つて識者を嗤はせ更と思ふ筈なく何れにしても彼等は吾々の目的が達しに經濟上町議政上に貢献しし理屈は却て多數町民の反

専門眼科醫師擔任

無料検眼

無科検眼券 御利用下さい



信用アリ正確味萬点ノ時計 御客様本位の眼鏡部

常盤屋時計店

電三三九

敷網と化した烈火の如く憤慨のたけ寝食を忘れて奮闘たわけた奴等だわいと嘲笑由するに到つてはと野崎外永山、佐藤、武田、馬目、柳下六町議何の面目あつて三萬町民に顔向けになるかの輿論今又俄然本月九日附を以つて起債認可いくら連名申譯的聲明書を出してでも降つたから僥倖だが雨でも降らんないくら不景の天の配罪今更悲鳴を上げ

祝 創刊

- | | | | | | | | | | | |
|---------|-------|---------|---------|---------|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------|
| 比 佐 昌 平 | 鷲 清 昇 | 若 松 美 三 | 萩 原 義 雄 | 河 田 梅 吉 | 眞 木 恒 | 前 澤 文 太 郎 | 荒 川 淺 次 郎 | 吉 村 安 次 郎 | 吉 田 寅 之 輔 | 吉 田 五 平 |
|---------|-------|---------|---------|---------|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------|

奇怪なる

回春園牛乳問題

石城郡民の輿論に訴ふ

豊岡村の回春院に於て牛乳約を無視したるや其裏面に問題に付ては志賀國松氏とは相當奇々怪々なる事實あり小濱長太郎氏との間に種々たるやの噂高く即ち牛乳に關給せしむるに至りし事情と平より高久村を通じて江名其供給問題に付紛争を來し係ある某は過日藝妓を身請の噂ありて全く温好なる志つありし事は地方諸新聞に於ては付小濱氏に種々世賀氏も餘りの壓迫に憤慨し迄の收益を見て且つ又磐城郡に閃見せし處なるも既に結話に爲り居る關係上小濱氏つゝあるものと何人内自動車道路の收益ある處局兩者間に妥協成立し八月に好意を持ち志賀氏に對しと雖も一度志賀氏の營業所と羨望されつゝあるのでは一日よりは兩者より半々宛て稍々壓迫を加へ最初は牛舎が不完全なりとて修築せしめ是れも出來上るや更に右に付平地方有志者間にはは許可を取らるる際に夏井村同育的指導その宣敷きを見たも承諾の下に契約成立する今度は蒸溜室が不完全なり斯る弱者を虐ぐる甚しきはじ郷土人であつて西山伴吾然るに最近又土地買収交渉と關係ある某縣議は〇〇長とて是れも完備せしむる等由々敷き社會問題なりとし氏に經營する約定にて運動の歩進まず居つたが當然の平町の水道擴張委員は次回を同導し過日回春院長をば約千圓以上の費用を消費せ由々敷き社會問題なりとし資金を收受許可さるゝに到一般輿論として西側を正門の町會で選任することになしめ八月中は小濱に供給しめ此のせい彼のせいと凡て調査に着手し相當公平なり今日迄西山伴吾より名義道路とすること、荒くも策動を開始し各派でもたより同院長も志賀氏に乳の供給を妨げ小濱氏に獨目下調査中なりと仄聞す。

先願者の申請を却下し

野崎、鈴木縣議なるがため

自動車道路を許可するのが
縣當局の不公平極る態度に
批難の輿論烽火さる

志賀氏も目下途方に暮れ居る次第にて向此地方は志賀平町より鹿島村を通じ小名が提出されかくして卅余名はなにか、某縣議も或る出する模様であるが、よあると主張するものがある氏の親族其他知己比較的多濱直路を通過する約平町よにより競願し猛烈なる運動風聞に武田某の運動を續けしく町會議員たる、者公平が町會も町當局も問題にし數ある爲め之等はに憤慨り三里を隔る縣道路に對しを續けて居つた處去る七月の事により運動資金を調達なる載断により、輿論と實ないので結局委員は町會議し居り漸く不公平なる非難自動車道路權利かく得た附を持つて縣會議員であるささ收受の上知らぬ顔の半地調査の結果當然一般大衆員から全部選任されること

第三小學校 門道路爭奪

果て西側か東側か

一般の輿論は當然地の利は西側

水道委員

祝創刊

植田町	古川傳一	川部村	兒玉万平
植田町	馬上守一	小名濱町	初川茂藏
植田町	坂本龜太郎	漁業組合長	二本松電氣小名支店
植田町	常磐工業	昭和會長	立花雄七
植田町	株式會社	横岡邦雄	菅原彌作
植田町	片岡醫院	久保田醫院	久保田眞吉
植田町	秋山材木店	中村醫院	中村三郎
植田町	小野保	御料理旅館	新米旅館
植田町	太田稻城	湯本町	藝妓屋組合
山田村	安島重三郎	湯本町	溫泉旅館組合
		消防組頭	井坂千代松
		米穀商	西丸新聞店
		雜貨商	長岡義守
			片寄金作

公論

縣を代辨なし縣政壇上にて縣民福利のため活動する
縣會議員が普選第一次光榮ある當選を得有權者を冒
瀆する利權縣議ありとせは來る來年度執行さるゝの
普選二次縣議選舉には合法的手段に訴い我々清き一
票の審判にて支配階級より彼等を蹴落すべし

持込金擔保秘密に取計ります

御用の方
は本社宛
申込あれ

署中御伺

福島公論社

吉田兵太郎

持込擔保秘密に取計ります
御用の方
は本社宛
申込あれ

暑中御伺
福島公論社
吉田兵太郎

事業と人物

彼は誰？ 眞木恒氏

法學士 眞木恒氏
階級闘争思想悪化現今辨
護士風を吹かせお高く留ま
天滑達動らく人格は、小名
つておさまり込む専横的な
小野は小名の神様として
辨護士徒輩批較的多いのに
敬意を表さる事も當然であ
も顧みず商人肌の實に民衆
的超階級立場の理想の元に
行さる縣議候補として出馬
に對しては親切をモットー
として民事行政總べてに研
へたる頭腦と腕に依て貫徹
させ唯云々なく優しき人格
の所有持主ではあるが時
件に直面したる時の鬼をも
ししぐ勇氣は名辨護士とし
て新進の名聲噴々たるもの
がある。

川井重之氏

最近開業した許りで内科專
門で女醫川井安子女士と共
に堂々と南町の中央に金持
と貧乏人の階級を區別しや
すい果して醫師は仁術なり
と果して醫師は仁術なり
東北文化の根源地として知
られ、今や小名濱商港も近
く着工され産業開發のため
大いに氣を吐き將來の大都
市とし縣及び東北發展の原
動力である今日の發展を見
今後の進展の行路リーダー
となつて活動する弱者のた
めに働らく人格者は唯それ
は前縣會議員小野普平氏で
ある清世界銘酒釀造の傍水
産工業株式會社の社長並に
小名商事會社社會議員あら
ゆる地方産業の方面の經濟
産業に關係を有して居る郡
政友會の重ん小名公友會に
員千名を要する會長となり
町政改革の爲正義の闘士と
して政民を問わざる超階級
立場から町發展のため一意
専心寢食を忘れて務めて居
る、如くしたる行動により
政民を問わす町のため縣の

小野普平氏

の道徳的發露なる個有極大局と云ふし尙一會進ん
を發起し正義の闘士として教育的方面の改革を絶叫
唯しも及ばぬ處が見受らるるなし兎角女史一人としての
今又之の特有性を發起し現 批難の聲が免れざる今日奮
に民政警部會の野崎邊り 闘努力して居る然るに近頃
の感情の問題より來たる微に私立教育方面に又職業婦
平氏を飽く迄ようごなし大 當事者が教育的道徳を没却
勢に順應せる民政思想擴張 なして惡口なして生徒を募
の大思人であり斯くしたる 集或は好間村隔離舎に派出
郷土愛より目芽へる正義の する手續によつて派出する
ため一流の勇氣果斷を把持 確定迄なつたにも係らず平
一路普選二次縣議立候補 一町目某がそれに對し、相
者として輿論の人にあるは 手を惡口なし自己の利害の
當然である、 ため争奪するの醜運動迄續
兎角非難の聲は免れ得ぬな けるに致つた事を仄聞する
れど現在の民政部會内の坑 がかるる事によつて教育當
争反目せる彼等を征伐させ 事者となし立派な職業婦人
今後の中堅となつて活動す を出す事が出來得るか云
一過靜かな家庭にする此獨 ふ今日に於て専心斯くしたる
り活動如何によるものだ、 業婦人たらしむべく一意教
必ず頼むしつかりと大衆の 鞭を取る事を他の教育者は
叫びは必ず氏の印象を最近 見習べし。

根本庄次平氏

齒科醫
日自己的營業に専心、親切
をモットーとなし小道を拾
進んで大進の意氣と一犬
秀なる技術を收めたる新進
の齒科醫として郷里である植
田町警察署脇に堂々たる容
壯なる健物を有して開業な
し共同經營者として兄弟も
及ばざる親交を有する玉川
村野田出身小松氏並に遠く
栃木宇都宮市の素封家に生
を享けたる優しみのある人
格的な新人螺川氏等と一致の
日大齒科專出の技術を發揮
なして親切をモットーとな
し民衆的な感じのよい應接
振は客に對し好感を與へる
許りで名實共に供ふたる活
動振である。

清野キヨ子 女史

泉村の寒村より身を起し決
然把持せる女傑的理想の元
に文化の尖端を踏む職業婦
人として今平看護婦會を
打ち幾多の立派なる職業的
其の功勞多きに當たる婦人
教導し校學に違あらざる
動振である。

萩原義雄氏

齒科醫師
民政黨石城部會の幹事長大
木の立木も暴風一度來るや
必ず右と左にゆられ氏獨特
の特有性たる勇氣と人類愛

山は富士御茶は
本場小笠銘茶に限る
卸小賣元 大角茶舗
平町才樋小路
大角金藏

營業種目
燃料 材木
金融 仲立
平町白銀町一
合資高橋商會
電話六三八番
代表者 高橋龜松

目町壹町平
店器漆屋井久和
番五〇四電

仙臺屋
問屋關勝茂
平町長橋町

植田萬次郎
材木商 植田三郎
四倉町

金成岩吉
四倉町

平町田町 電話五二三番
高久病院
醫學士 高久忠
藥劑士 赤竹菊雄

内科小兒科 外科花柳病科
耳鼻咽喉科 レントゲン科

四倉町 柏屋旅館
小湊宗治

如來寺 小松學俊
四倉町

菅波千之助
漁業組合長
新妻長八
飯野村

山崎吉平
飯野村

廣野村 旅館
仲屋
湯元泉溫木折

業負請木士
郎太文澤前
路小樋才平

外科 花柳外科專門
平町六丁目橋際
木村外科醫院
電話三〇九番

專門内科一般
内科は何でも診療致します
呼吸器病ばかりではありません
平町南町六五 電七二三番
川井内科診療所
醫學士 川井重之
女醫 川上安子

氷アスイクム
製 藤市
候仕達配速敏拘に少多前出
番五〇三話電

大黒屋
平小間物化粧品組合
組 合 長
小林清吉
土木監督署長

磐城セメント特約販賣店

和洋銅鐵金物問屋



釜屋商店

平町五丁目 電話九番一三九番

特賣

たひら正宗 福島縣清酒品評會一等賞受領

花 春優等賞受領

醬油釀造元

山崎合名會社

電話一〇番

平新川町

松崎長三郎商店

電話一七二番

石城小名濱

清世界 清水屋

各炭鑛御用達 小野晋平

電話六番

茨城縣平潟町

大敷網事務所

遠藤治太郎

豐間村

大敷網事務所

豐間濱

濱屋旅館

海水浴場海岸へ約一町

生命保險界の王

世界的大會社

加奈陀サン生命保險會社

本社 英領加奈陀モントリヲノル市

平代理店 加藤丈夫

湯本代理店 長岡義守

契約高 五十億

資本金 十一億

尤も特色あり 尤も有利なる保險契約

貸切は

磐城タクシーへ

電話四五四番

平驛前

タクシーの御用命は

新しい氣持のよい

昭和タクシーへ

電三四三番

植田町

磐城無盡商會

石城町村長會

堀江工業株式會社

片磐城製糸株式會社

平町會議員一同

平旅館業組合

石城郡銀行組合

勿來町

藝妓屋 森重次郎

豐間消防組頭

遠藤總三郎

小名濱町

町長 鈴木榮

助役 高木保

小田炭礦株式會社

入山採炭株式會社

湯本同運送合資會社

平運輸株式會社

公認 磐城自動車學校

古河炭礦々業所

有限責任

信用組合 平庶民金庫

江名町購買理事用組合利長

理事長 太清左工門

平三丁目

大黒屋商店

電話一六番

朝鮮炭礦 戶部光衛

小野田炭礦

五十嵐炭礦

不動澤礦業所

專務取締役

菊地德太郎

福島炭礦株式會社

浪花炭礦事務所

佐藤留藏

植田水力電氣會社

金成通

鶴村消防組頭

山崎登

勿來町々長

大平陸四郎

勿來町消防組頭

赤津庄兵衛

町會議員 小松章

酒造家 赤津修一

勿來町 小松春治

江名町 中之作鐵工所

杉山八尺炭

常磐線有煙最優良炭礦

礦主 杉山今朝吉

雜貨 荒物

大黒屋商店

電話一三番